

Chuo

中央区

P107-P123

新潟市民
文化遺産
ガイドブック

じゅんせつのひ
殉節之碑

中央区西大畑町5195(新潟大神宮内)

日本を二分した最後の国内戦争「戊辰戦争」は多くの犠牲者を出しました。当時、新潟の警護にあたった中心的な存在「会津藩士」の戦没者は242余名とされています。「殉節之碑」は犠牲となった会津藩士の慰霊碑として建立されました。当碑は、新潟の歴史を語り、平和の大切さを伝える貴重な石碑です。

<開催時期> 慰霊祭:10月第3土曜日



推薦団体 祀裔会(しえいかい)

市島三千雄詩碑

中央区柳島町2-10(新潟市歴史博物館内)



中央区

新潟県の口語自由詩を先駆的に書き、詩誌「新年」を通じて新潟県及び日本の現代詩に大きな足跡を残した市島三千雄を研究する上で重要な詩碑。

新潟市歴史文化博物館に保存されています。



推薦団体 市島三千雄を語り継ぐ会

うらやすばしいこう

浦安橋遺構

中央区上大川前通6番町1202

かつて130を超えた新潟市の堀に架かる橋のうち、唯一、親柱と欄干の手すりを支える柱、それらの下部にある遺構物が一体となって残っており、往時の全容をしのばせる遺構です。昭和3年(1928)竣工、現在かけられている3代目萬代橋の1年前にかけられた浦安橋の遺構は、隣接する本町中央市場商店街(通称:人情横丁)と新津屋小路がかつて堀であったことを今に伝える数少ない遺産です。また、江戸時代はその重要性から、長岡藩の領主入用橋でもあった浦安橋。そ

の遺構は日本海海運の全国的な拠点として繁栄した湊町新潟の記憶を色濃く投影する、極めて重要な歴史・文化遺産でもあります。



推薦団体 本町中央市場商店街協同組合

ぬったりてらまちいちば

沼垂寺町市場

中央区沼垂東3-5-25ほか

「沼垂の朝市」の歴史は古く、享保6年(1721)には市(いち)がたつたと中蒲原郡誌に記載されています。

ごく最近までは近郷の農家はその生産物を舟あるいは牛車や馬車等でこの地に運び、これを売り捌く成果問屋、それに連なる小売業者、そして消費者等々入り乱れて大変な賑わいでした。

この沼垂寺町市場は、昭和30年(1955)12月に県道上の朝市が自動車時代の到来により交通上の支障から寺町堀の埋立地に移転した時期から若干遅れてはいますが、往時を彷彿させるレトロな雰囲気醸してます。



推薦団体 沼垂地区町内連合会

くらおり

蔵織

中央区西堀前通1番町700



明治43年(1910)に蔵付きの住宅として建てられた建築で、平成23年(2011)に築百年を迎えています。

明治期の新潟で、名妓と謳われた芸妓「庄内屋しん」が、ここで晩年を過ごしました。

かつて西堀が流れていた地で、当時を感じさせる室内の設えが、花街が栄えた新潟の風情を今に伝えています。

平成18年(2006)に、建築様式を活かしたまま補強工事と手直しが施されました。

貸出可能なギャラリーと喫茶コーナーがあり、現在は最新アートや古美術、骨董などの展示や日本画教室、郷土史勉強会などで親しまれています。ギャラリー見学などの際に屋内を見ることが可能です。

新潟らしい歴史的建築が現代に遺され、街の中で活かされており、文化的に貴重な施設です。

アートや郷土の骨董などの展示や、日本画塾・郷土史塾などを随時開催しています。



にいがたのまち・ぬったりのまち・こうじめぐり

新潟の町・沼垂の町・小路めぐり

中央区

(★本町通り&古町通り界隈★沼垂東&沼垂西界隈)



中央区

江戸時代のはじめ、新潟町は今より海岸寄りに位置していましたが、信濃川と阿賀野川が合流して湊が浅くなったため川に近い場所に町を移転することになりました。明暦元年(1655)には移転がほぼ完了し、信濃川に沿って平行に「通り」直交する様に「小路」がつけられました。

沼垂の町は何度も移転しました。現在の場所は貞享元年(1684)五度目の移転先として、栗ノ木川に沿って平行に「通り」直交する様に「小路」がつけられました。平成19年(2007)より市民による新潟の町や沼垂の町の小路の存在を意識し歩く、まちあるきのしかけが始まり、官と民が協力した「小路めぐり案内板・地図・コース」の整備が行われています。「小路の歴史と風景の魅力」を通して、江戸時代からのまちなみを体感することができます。
※2013年グッドデザイン賞受賞



みなとまち新潟 日和山

中央区東堀通13番町



中央区

江戸時代、全国各地の湊町には船乗りや水先案内人が天候や風向きを観測し、出入りする船を観察していた日和山がありました。中央区東堀通十三番町にある日和山もその1つで、新潟の湊の水先案内発祥の地として、また、まちを見渡す名所としても賑わっていました。しかし、まちの変化と共に忘れられ荒廃していた中、市民による祭の復活、日和山の魅力に触れるイベント、手作りの地図や案内板を使ったまちあるき等が開催され、人々の関心が向く切っ掛けとなると、新潟市も協力参加し、官民によって整備が行われました。日和山は、みなとまち新潟の歴史的な史跡であると共に、官民一体となり守り、整備し、活用し、進化し続けています。※2014年グッドデザイン賞受賞



ふるまぢかがい

古町花街

中央区古町通8～9番町周辺

港町新潟の貴重な文化遺産である古町芸妓の活躍の場が古町花街(ふるまぢかがい)です。明治期に近代花街として形成され、震災や火災でも大きな被害を免れたため、戦前から歴史的な料亭建築、置屋建築等が多数残されています。全国の花街が衰退あるいは消滅する中で、戦前からの町並みが残る現役の花街としては、京都・金沢に次ぐものです。特に京都・金沢が茶屋の花街であるのに対し、古町は料亭の伝統的花街として全国でも最も良く残されています。古町芸妓を指導する新潟市無形文化財日本舞踊市山流家元の住居兼稽古場もこの地区内にあります。新潟が全国、世界に誇る遺産として、今後も保存・整備を図る必要があります。またその活用を通して、交流人口の拡大、地域経済の振興、新潟市のイメージアップに繋げることが可能です。

<毎年開催>

- ①にいがた美しいまちなみフォーラム
- ②古町柳と華の会
- ③華つなぐ道発表会



推薦団体 古町花街の会

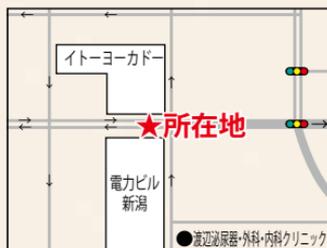
にんじょうよこちようしょうてんがい【よんとう】

人情横丁商店街【4棟】

中央区上大川前通6番町1202付近

人情横丁の建物は、終戦の混乱が尾を引く昭和26年(1951)に建てられました。露店で鮮魚などを扱っていた業者約80人が、清潔な環境で食品を販売するために、新潟市から二番堀を埋め立てた土地を借りて、建設したものです。(注:実際には堀は完全には埋められず、現在も建物は堀の上に暗渠している状態です。そのせいか人情横丁には住所がなく、番外地として扱われています。)

模範的市場の実現を目指す組合の要請に応じて、新潟市が設計した建物は各店舗に水道栓を備え、耐火材を用いるなど、資材の乏しい当時としては画期的なものでした。またユニークな設備としては、4間あった堀を1間に狭めて蓋をし、建物の床下中央を流して、火災発生時には消火用水として使用するという堀の上ならではの設備もありました。堅牢で耐火性を備えた店舗は新潟大火や新潟地震に耐え、高度経済成長時代の再開発も免れ、建設当時の姿を今も伝えています。



推薦団体 本町中央市場商店街協同組合

旧小澤家住宅周辺に残る 港町新潟の歴史的町並み

中央区上大川前通12番町、本町通12・13番町、曙町、横六番町

平成16年(2004)度新潟大学工学部・本間組共同研究報告書によれば、当該区域内には、町家を中心とした歴史的な町並みが良く残っており、特に重要な区域とされています。区域内には、新潟町家の特徴を良く残している元回船問屋、北前船の時代館新潟市文化財旧小澤家住宅や元網元屋敷など、港町新潟に特に関連の深い歴史的建造物が存在します。また、建物のみならず、南北にはしる、本町通、上大川前通とそれと直行する小路といった、歴史的な都市構造も多く残っています。

江戸時代の都市計画区域の一部であり、タイムスリップしたごとく町家・蔵などが点在し残っている、市民の文化遺産・地域の宝として保存し活用する価値のあるところです。



いりふねじぞうそんおよびせんたいじぞう【じょうしんいん】

入船地蔵尊及び千体地蔵【浄信院】

中央区本町通14番町3069番地甲

明治時代新潟港に出入りした船主さんや、地元の海運業に関係した方々が寄進された黄金仏。その数、実に1,470体。本堂の他に、千体仏堂を有します。古くは、新潟祭住吉祭の象徴である、御座船が安置された場所でもあります。手彫りの仏様一つ一つに表情があり、もしかしたら、自分にそっくりの仏様に出会えるかも。毎年7月23日と24日は浄信院の大祭で、千体仏の御開帳が行われています。普段は、紫外線から仏様をお守りするため、扉を閉じておりますが、事前にご連絡があれば、ご住職様がそっと覗かせてくれるかもしれません。

江戸時代から続く小澤家(117ページ)から500m。昭和の香り漂うフレッシュ本町商店街を抜けて、明治に祀られた千体仏をお参りしてから、平成の日和山住吉様(114ページ)まで100m。市民文化遺産が集中する地域です。

<開催時期>千体仏御開帳:7月23日・24日



推薦団体 一番組

教派神道 金光教新潟教会

中央区寄居町361

教派神道・金光教新潟協会は、金光(こんこう)さまと呼ばれ、大正初期より御社を構え今日まで南浜、古町界限、県内外から多くの方が参拝され、その様子は当時の新聞に「新潟の金光さん」として8回にわたって連載されました。新潟大火、新潟地震等の天災にも耐え、増築はされながらもほぼ落成当時の姿そのままを今に残し、この界限でも貴重な入母屋造りの木造建築となりました。

現在は、地域の会合、イベント、もちつき大会などを開催し、地域コミュニティに貢献しながら、その発展を見守り続けています。特に観光地が少ないとされるこの地域においても、昔ながらの建物を見て訪れる観光客もしばしばおり、地域の新しい見所としても充分価値あるものです。

<開催時期>春季・秋季大祭:4月・10月 第2日曜

もちつき大会:2月中旬～下旬



推薦団体 南浜会

永島流新潟樽砵

中央区

旧新潟市の祭りは古くから踊りが盛んで、同時に威勢の良い律動に合わせて、下駄や樽を叩いて大いに氣勢を上げたと言われています。

新潟樽砵は170年前の江戸後期に創設されました。祭り文化によって独自の発展を遂げた新潟樽砵は当市の誇る伝統文化で、次代に向けて継承しなければならない市民文化遺産です。



推薦団体 永島流新潟樽砵伝承会

沼垂まつり 献額灯籠【ケンカ灯籠】

中央区沼垂東1-1-17(白山神社内)

日本書記の沼垂の柵が起源とも言われ1300年以上の歴史ある町で毎年開催され、白山神社に奉納する灯籠押合いとして長い歴史と伝統がある「まつり」です。

「沼垂まつり」は沼垂衆の楽しみであり、毎年、白山神社に奉納するため、各町内がそれぞれ特色のある灯籠、山車、子供灯籠を競いながら自慢の物を作成します。

前夜祭は町内ごとに押合いの練習をしたり、夜遅くまで結束を深め、本祭に備えます。

「まつり」当日は朝から老若男女が引く各町内が奉納する灯籠、山車、子供灯籠が沼垂の町中を練り歩きます。

クライマックスは午後7時からの献額灯籠です。笛や太鼓が鳴り響く中、「グワッシャン」と自慢の灯籠と男のぶつかり合う音と観客のどよめき、まつりが最高潮に達します。最後は全灯籠が集まり、一斉に回します。これぞ沼垂の「まつり」です。

町中の人に参加できる「沼垂まつり」はこれからも親から子へ、そして孫へと引き継がれていきます。

<開催時期>

前夜祭:8月15日

本祭:8月16日



鳥屋野六階節

中央区鳥屋野地区

鳥屋野六階節の伝来は、その昔佐渡に流された順徳天皇によるものとも、親鸞聖人によるものとも言い伝えられ、布教の傍ら村人に教えたものとも云われています。七変化する踊りは、序の「とやの」「あねさ」「切り込み」「なげし」「弓引き」「給え」「藤の花」から構成されています。京の舞を見るような優雅典雅な踊りが特徴で、昭和39年(1964)に設立された「鳥屋野六階節保存会」が保存、伝承に努めています。

「鳥屋野六階節」の発生は、神楽の舞の様なもので、音楽も謡曲のようであったことや、時代が下って、江戸末期には、甚句の流行に伴って、その影響を受けた音楽によって盆踊りの形になっていったことなどが、重大な鍵となるように思えます。幾度となく衰退しかかったこの芸能を復活させたいと願う先人の思いと努力が今ある形にしてきたといってよいでしょう。この優美な盆踊りを絶やすことなく後世に伝え、多くの人々をなごませて欲しいものです。



推薦団体 新潟市伝承芸能保存会

長潟藻たぐり甚句

中央区長潟地域

中央区

土地改良以前の長潟亀田郷一帯は、地図にない湖と云われた程の低湿地帯で、その昔は腰まで水に浸かりながら農作業を行い大変な苦労があったようです。交通手段としては、川を舟で行き来し生活物資などの運搬、時には病人まで船に乗せて町につれて行ったそうです。夏場には、その大事な川や堀に藻が川面までびっしりと伸び、舟の通行が出来なくなり、各村総出で藻払い作業をしていました。大鎌でガツボを刈り、藻をたぐり寄せ、舟や土手に丸めて投げ上げる動作を唄や踊りに取り入れ、盆踊りや酒の席で唄い踊られていました。しかし一時は土地改良のお陰で、藻払い作業の必要がなくなり途絶えていたものを昭和51年(1976)に復元され、同57年(1982)には「長潟藻たぐり甚句保存会」が結成され、現在に伝えています。

地元新潟で先人の厳しい農作業の中から生まれ、唄われ、踊られ、現在まで伝えられており、歴史的、内容的にも地域の宝となっています。



推薦団体 新潟市伝承芸能保存会

